

奈良市公民館運営審議会会議録

平成29年7月13日会議

平成29年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	平成29年7月13日(木) 午前10時00分から午前11時30分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第21会議室	
議 題 又は 案 件	1 平成28年度公民館事業実施状況及び利用状況について 2 平成29年度公民館事業計画について 3 平成28年度公民館大会についての報告 4 平成29年度公民館大会について 5 その他	
出席者	委 員	鮎川委員、井内委員、大場委員、粕井委員、川村委員、権藤委員、 田中委員、伏浦委員、八木委員、吉田委員、若林委員 【計11人出席】 (榎本委員は欠席)
	事務局	教育総務部次長、生涯学習課長、生涯学習課課長補佐、生涯学習 財団理事、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局次長
開催形態	一部非公開(傍聴人0人)	
決定事項	—	
担 当 課	教育総務部 生涯学習課	
議事の内容 ○教育委員会の挨拶 教育総務部次長から挨拶 ○会議の公開について 案件5 その他については非公開で承認 ○会議録の署名について 議事に入る前に議長から今回の署名委員の指名及び確認(粕井委員と川村委員)		
【案件1】平成28年度公民館事業実施状況及び利用状況について 財団事務局長 平成28年度の公民館利用状況は、生涯学習センターを含む24館で、 総利用件数41,140件、総利用人数591,696人。27年度は、年度末に中 部公民館において、空調設備工事のために公民館を閉館していたため、 利用人数が減少し、平成27年度との比較はできないが、平成26年度と比 べると、15,000人程、利用人数が減少。予算削減の折ではあるが、主催事		

業の件数と参加人数が減ってきているのは頑張っていかなければならない。

次に平成 28 年度公民館事業については、「高齢者」「男女」「青少年」「家庭教育」「現代的課題」の 5 つの分野として、24 館合計で、事業件数 491 件、開催回数 2,021 回の事業を実施し、延べ 63,224 名の方に受講をいただいた。ここには出ていないが、28 年度と比較すると、事業件数は増えているが、受講者数は、延べ 4,244 名の減少となった。受講者減少の大きな理由は、西部公民館が主催事業として開催した「ストレッチ教室」が平成 28 年度は自主グループに移行したためと考えられる。

大型館では、施設の特徴、集客数の多さ、駅からのアクセスの良さ等を活かしての事業展開を図った。

特色としては、大型館 3 館の役割分担が明確になってきたことである。

生涯学習センターは、全公民館で活躍できる「託児ボランティア」「パソコン学習サポーター」の養成や、スキルアップなどの人材育成、またセンター内にあるパソコン学習室を活用した講座を行い、中部公民館は、世界遺産等の社寺に近い立地と、大人数を収容できるホールがあることを活かし、「古典文学講座」、そして、昨年度に続き春日大社の式年造替への関心を深めることを意識した実行委員会との共催事業「一話完結！西山厚が読む春日権現験記」シリーズ、西部公民館は、学園前駅すぐという立地を活かし、気軽に参加できる講座を行うことで、「駅前夕活」や「まなVIVA！」などを行い、公民館活動の第一歩を踏み出してもらうことや、近隣の大学との共催等により高度な学習機会の提供を行った。

地区公民館では、地域の特色や地域課題の解決に対応し、その地域ならではの工夫をこらした事業展開に取り組んだ。

傾向としては、地域の各種団体との共催事業が増加。公民館で取り組むだけでなく、共催相手と課題やニーズを共有し、企画段階からお互いの持っているものを出し合い取り組んだ。

平成 28 年度特色ある事業(重点分野別)として、1. 高齢者分野、2. 男女分野、3. 青少年分野、4. 家庭教育分野、5. 現代的課題分野から 15 の講座を紹介(資料「平成 28 年度特色ある事業」参照)。28 年度は 24 館において、491 件の講座を開催した。

その他、生涯学習支援活動事業として、別途、市の委託を受けて実施しているものについて報告。

まず、「奈良ひとまち大学」について、「奈良ひとまち大学」は、奈良に暮らす 20 代～30 代の若い人が、世界に誇る奈良の魅力を再発見する学びの場を創るという目的のもと、奈良市を丸ごと大学のキャンパスに見立て、

奈良で魅力的な人に出会い、奈良の町の歴史・文化・自然・モノに出会い学ぶという考えで、今までになかった新しい学びの場を提供している。

平成22年9月に開校して以来、財団職員でプロジェクトチームをつくり、職員のもつネットワークや公民館の事業企画・運営のノウハウを活かし、28年度は39の多彩な事業を実施。公民館の利用はご高齢の方が多く、若い世代が参加したいと思う授業の開催は新しい挑戦であるが、20代～40代の参加が半数以上となり、参加者の満足度も非常に高いことから、一定の成果を挙げていると考えている。

次に「奈良市子育てスポット事業」について、この事業は、子ども育成課から委託を受け、28年度も11の公民館で、毎月2回、都跡公民館においては3回の月もあり、実施した。

概ね0～3歳児とその保護者を対象に、28年度は、延べ6,187人の参加があり、子育て中の親同士の情報交換や、悩みの共有、子育てストレスの緩和の他、専門的なアドバイスも聞け、満足度も高く、また、今必要とする事業と捉え、引き続きこれをきっかけにして子育て世代の公民館利用に繋がりたいと考えている。

他に、市農林課からの委託事業として、東部の5つの公民館で農作業などの体験を通して田舎暮らしを知ってもらい、農業への魅力を感じてもらおう「アクティブシニア農業体験事業」や、地域で家庭教育を支援する仕組みを構築する「家庭教育支援事業」を展開した。

これらの取り組みを通して、地域における「学びの場」「地域づくりの拠点」としての公民館の機能を強化し、市民の学習活動を促進するとともに、地域の学校や各種団体・関係機関との連携を図りながら、地域の課題解決に向けての支援に努めることが出来たと考えている。

【案件2】平成29年度公民館事業計画について

財団事務局長

29年度も市民の皆さんへの学習機会の場の提供、さらには地域の皆さんの自主学習の支援、また、地域の活動の拠点として、地域の課題に対応し、各団体との連携を図って事業展開をしていく。

29年度の事業予定件数は383件、回数は1,623回、募集定員は8,393人の計画をしている。また、定員を設けない自由入場の講座もあるので、更に多くの皆さんにご参加いただけていると考えている。

公民館事業については、生涯学習センター・公民館の活性化と、高まる市民の学習意欲と多様なニーズに応えることをめざし、社会教育・生涯学習に関する各種の事業を行う。

施設別の計画としては、大型館は、大人数を収容できる等の施設の特長を活かした事業展開を行うとともに、高度な学習機会の提供を図る。地区館においては、地域の特色・課題や住民のニーズ等に即した事業展開を行うとともに、地域の学校・自治会や各種の活動団体・関係機関と共催事業を行うなど連携を図る。

その他、市民の皆さまが充実した社会教育・生涯学習関連情報をいつでも手軽に検索・活用することができるよう、インターネット等を利用した情報発信を積極的に行っていく。また、パソコン講座等の情報機器に関する事業を開催し、情報格差の解消に努める。

29年度の自主グループの登録件数は24館全体で、平成29年6月現在、1,715団体あり、活発な活動を期待している。

次に、奈良ひとまち大学は、今年度も奈良の魅力的な人とまちを紹介しながら、多くの方に奈良の魅力を発信し続けたいと考えている。「社寺」「文化財」「伝統産業」「食」「奈良を元気にする人」などの5つのシリーズで、全37回を予定している。これらの授業を受けることにより、奈良の素晴らしさ、おもしろさ、そして奈良に魅力を感じ、奈良への愛着を深めてもらうとともに、授業を通しての出会い、ふれあい、学びの場として、奈良市全域の地域の活性化を目指して実施する。

続いて、子育てスポット事業は、昨年同様、11館で実施し、子育て親子の交流・相談の場の提供や、子育て情報の交換の場を提供する。

この他に、東部地区5館で実施の「アクティブシニア農業体験事業」、子どもや家庭を取り巻く諸問題の解決と、家庭の教育力の向上を図ることを目的としての「家庭教育サポートネットワーク支援事業」を実施し、地域の特性、ニーズに対応した事業展開を進める。

以上の事業を通して、今年度地域の教育力の向上と、活性化に努める。

【意見等】

委員

① 講座の自由入場について

日頃より運動に関連する事柄の関心と活動経験が多いためお伺いしたし。自由入場の講座については、申込なし、人数制限なしで受け入れているということであるが、公民館以外の市関連施設では福祉センターも同じように自由入場で講座を行っている。講座の内容によると思うが、運動関係の事業は目が届かず事故につながりやすかったり、人が溢れている状態では接触に伴うケガなどが発生しやすくなるため懸念している。ここ1、2年の間に運動関係や体操関係の参加者が急速に増えている中、自由入場のため入場を断れないと話を聞いている。事故ケア

について館できちんと取組んでいると思うが、その場合、どのような運営・対応を考えているのか伺いたい。

② 子育て事業について

子どもは日本の宝であり、特に幼少時は重要で、どこで生まれようと、どういう環境であろうと子どもに責任のないことだから、日本国内の中で、国民によりきちんとケアして育て上げることが大切であると従来から考えている。生まれた環境が原因で「知識を与えられない」、「ご飯を満足に食べられない」、教育の場においても地域差があり、学校給食を例にあげても無料で食べられる子どももいれば、費用負担が必要な子どももいる。そもそも給食制度がない地域に住む子どももおり、子どもに対する事業は平等にきちんと行わなければならない。それをやる方々は苦勞していると思うが、子どものために活動できる経験を積んだお年寄りがたくさんいる中で、公民館としてこういった方をどのように活用していくのか、どのようにすればコラボできるか、生涯学習財団として構想をお持ちだと思うが、将来具体的に考えていることがあれば伺いたい。

財団事務局

① 講座の自由入場について

運動に関する自由入場の定員について、公民館の中で溢れすぎて困るということは今のところないが、公民館で対応できる人数で収まっているからといってそんなことを言っている場合ではないと思っている。万が一、人が集まりすぎて事故につながりそうであれば、当日に人数制限を行い、見学を勧め、次回開催からどのようにするか検討しながらケガの無いように実施していく。

② 子育て事業について

子育て事業については、現在も高齢者の方とコラボしながら事業を実施している。例えば、高齢者学級と一緒に昔の遊び(お手玉やけん玉など)を子どもたちに教えるような講座を増やしている。そのため、今後も高齢者の方にはご協力をさせていただきたいと考えている。

委員

29年度主催事業計画について、28年度の開催件数は491件で、29年度は383件と開催件数が少ないが、これはこれから増えるということか。

財団事務局

29年度の計画は383であるが、28年度当初の計画も382であったが実際には491まで膨らんだ。地域の方から声が上がって新しく講座を企画するなど、毎年100件ほど講座が増える。計画の段階では29年度383で上げているが、実際には490前後の事業件数になると思われる。

【案件3】平成28年度公民館大会についての報告

- ・第38回全国公民館研究集会和歌山大会 兼 第64回近畿公民館和歌山大会
平成28年11月10日(木)～11日(金)

委員

いつもこういった大会に参加させていただき、とても楽しく参加させていただいている。今年の全大会では、つげ笠をかぶって、法被を着て杖を3本とリュックをたくさん持ってこられた方が講師であった。講師の持ってきたその杖を見たとき、ガールスカウトに入っている私は、疲れた時に杖を洋服の袖に通し、担架を作って人を運ぶなど、そのように使うであろうと見ていたところ、1本は蜘蛛の巣を払うため、2本目は古道を歩く際につり橋を渡らなければならないその時に、どうしても渡れない人のために自分が杖の前を持ち、杖の後ろをその人に持たせ、肩に手を置いてもらい、目を閉じて渡るそうで、ただ杖替わりでなく、杖をいろいろと活用されているのだと思った。また、私も経験があるが、靴を買って1年ほど履いていないと、靴の先が割れてしまうことがある。登山中でも歩いていると同様に靴先が割れてしまうことがある。そういったときに、接着剤で靴を仮止めし、ガムテープを貼り、最後に白縄で結んで歩いたり、冬山に上る際に食料と飲み物を持っていくが、ペットボトルでお茶を持っていくと凍ってしまうが、スポーツ飲料であれば凍らないそうだ。また、夏もスポーツ飲料は点滴替わりとして熱中症対策にもなる。その他にもいろいろお話をされていたが、私は自分の興味のある点を報告書に書かせていただいた。

次に分科会で若草公民館の話を聞いたが、前々回、若草公民館は65歳以上の方に公民館へ来ていただくためにロコミで輪を広げサロンを開いているという話を聞いた。今回は多聞城についての話で、若草中学校の中に多聞城があり、公民館からはすぐ登れるが、奈良の観光の中に多聞城は触れられていないと思う。しかし、若草公民館の地域では多聞城を楽しむ会を興すほど、みんなで多聞城を盛り上げる活動を行っているという話を聞いて、少しの資源でも頑張れば好きな人が集まり、楽しんでやっていけるのだと思った。また、ガイドを行っている方も、定年退職後にガイドを始めたそうで、私たちも年をとっているから何もできない、ではなく、自分の好きなことはなるべく頑張っていきたいと感じた。

公民館大会でのお話は楽しいので、みなさんもたくさん行かれると良いと思う。

- ・第64回奈良県公民館大会
平成28年9月2日(金)

委員

全体会では和歌山大学の西川先生が話をされたが、「地方再生時代の社

会教育と公民館」ということで、地方再生するために人材も必要であるということで、社会教育の公民館活動が切っても切れない関係であると話されていた。項目的には資料にあるとおり8項目に沿って話されたが、和歌山では社会教育大会と公民館大会は別々に開催されている。ところが奈良県では一緒に開催されており、社会教育委員長さんや公民館の運営委員、公民館長、関係職員が会し、社会教育の話も公民館の話も一緒に混ぜて話ができ、とても良い話ができると仰っていた。私はこういった大会に出席するのは初めてであったが、社会教育と公民館について一緒にやる奈良県のやり方は良いことであり、先生のおっしゃる通りだと思った。

分科会では「参加者と協働した公民館活動の活性化の取組」に出席させていただいた。斑鳩公民館長の話であったが、公民館の現状と課題ということで問題提起があった。詳細は報告書を見ていただきたいが、最後にお話をされたのが、公民館と自主グループが一緒にやっていかなければ発展性が無いということを結論的におっしゃったと思う。私も自主グループの中で活動している一人であるが、高齢化社会において公民館が果たす役割がますます重要になっていると感じている。また、自分が所属するグループでも高齢化が進んでおり、60代でも若者扱いされている。今まで活動され豊富な経験を持つ先輩方の知識を引き継ぎ活動しているが、これから公民館と自主グループが協働して市民講座を開くなどして、自主グループのアピール性や新規加入の拡大につながるのではと思いながら、この分科会に参加し期待したところである。

【案件4】公民館大会について

事務局

第 39 回全国公民館研究集会兵庫大会兼第 65 回近畿公民館大会兵庫大会、第 65 回奈良県公民館大会について詳細を説明。出席者は下記のとおり。

■全国公民館研究集会

兼近畿公民館大会 兵庫県神戸市 11/30～12/1 大場委員

■奈良県公民館大会

橿原市 8/31 権藤委員

【案件5】その他

奈良市情報公開条例第 7 条第 1 項第 5 号に基づき非公開

【事務連絡】

財団事務局

チラシの案内

- ・おしゃべり会in公民館
- ・公民館でとっておきの夏休みを

資 料

会議次第

委員名簿

平成 29 年度公民館要覧及びその他事業資料

平成 28 年度公民館大会の報告資料

平成 29 年度公民館大会の資料